本日の紙面

<1> テックエド2010、閉幕
開発者向けセッション
<2> ITプロ向けセッション
編集部より

明日の神奈川県東部
12-18=☂10%最高33度
27日17時 気象庁発表

Tech·Ed 新聞
Tech·Ed Japan 2010

2010(平成22)年
8月27日
《夕刊》
(通巻第十九号)

Microsoft | TechNet

テックエド2010 閉幕

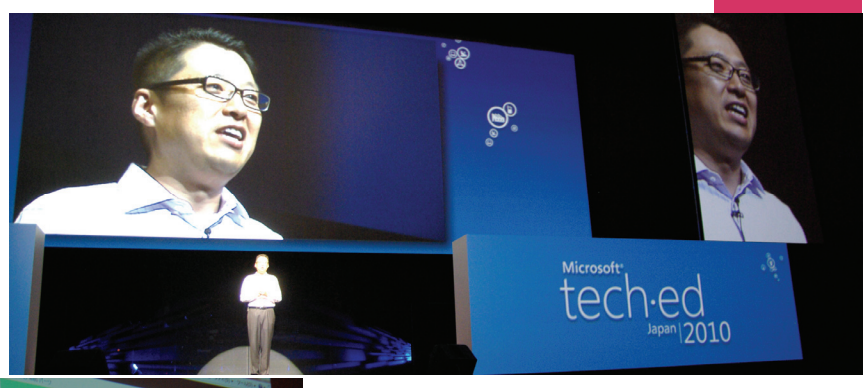
パシフィコ横浜で25日から3日間に渡り開催されたテックエドジャパン2010が27日、閉幕した。クラウドを中心とした基調講演や70ものセッションは、開発者の将来の糧となるだろう。

大場章弘氏の司会進行による基調講演で幕を開けた今年のテックエドは、注目のクラウドを中心とした先進テクノロジの紹介のみならず、現場感覚を持った実践的な内容となっていた。

一方、基調講演でも語られたように、IT業界における主役は常に技術者であるというマイクロソフトのメッセージは不変である。テックエドのようなイベントをはじめ、インターネットを通じて提供される膨大なコンテンツや、各種のセミナーからは、マイクロソフトの意気込みが伝わってくる。

一方で、こうした活動は、技術者の支持こそが技術の命運を左右するということを、マイクロソフト自身が理解している証だともいえる。もはや、すぐれた技術を実装することだけで成功できるような甘い世界ではないのだ。

新たなサービスや製品がリリースされ、IT技術者にとって現実のものとなった今、このイベントで得た知識をどう活用するかが問われるだろう。甲子園球児ではないが「締まっていこう！」



レポート

開発者向けセッション

■T1−402（講師▼赤間信行）
「既存業務システムのウィンドウズAZUREへの移行」

クラウドコンピューティングの到来により既存業務システムは見直しを迫られている。とくにコスト削減という面で、クラウドの存在は無視できない。そこで、3つのテーマについて検討する。

「まず使ってみてください」(T1-402)

まず、データストレージ選択について考える。オンプレミスのSQLサーバー、SQL AZUREデータベースサービス、ウィンドウズAZUREストレージサービスという3つの選択肢においては、それぞれコスト、容量、機能性という側面を犠牲にせざるを得ない。これらは目的に応じて選択するもので、パフォーマンス比較などは意味がない。

次に、オンプレミスとクラウドの連携について考える。連携の種類にはデータ連携、処理連携、認証連携、運用連携がある。AppFabricはクラウドからオンプレミスを呼び出す処理連携を実現し、フェデレーション認証はイントラのアカウントをインターネットで使えるようになる。

最後に、運用監視について考える。AZUREはPaaSでありものになる。運用監視には、性能監視、障害検知、バージョンアップ、定常監視があり、ミドルやいインフラを分解してはいけない。

■T6−310（講師▼川西裕幸）
「ユーザーエクスペリエンスデザインUXをデザインする手法とプロセス」

まず、すぐれたUXのサービスや製品は、最新のRIAテクノロジやツールを使うだけで実現できるわけではない。UXをデザインするためのプロセスやスキルが必要であり、ユーザーの満足に責任を持つ役割が必要である。

UXは、顧客にとって費用対効果を向上させる利点があり、開発会社にとっては製品やサービスの競争力を高める意味がある。しかし、UXデザインは「銀の弾丸」ではなく「正しいUX」があるわけではない。ユーザーは実装モデルに興味はなく、ユーザーの視点を反映する脳内モデルをベースにデザインすべきである。

会場の参加者に質問(T6-310)

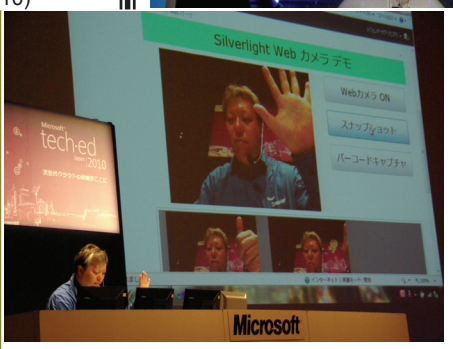
また、UXデザインのプロセスとしては、ユーザーのモデリング、タスクフロー、スケッチ、プロトタイプというフェーズがあり、その後で実装開発に向かう。そのためにはユーザー調査に基づく仮想的な個人を想定し、シナリオを描きだしていく。

さらに、紙ベースやプロトタイプに対してユーザビリティテストを行い、問題点を見つけ出す。

このような過程を通じてUXデザインを設計プロセスに導入することが、費用対効果が高く、差別化できる製品やサービスを生み出すことになる。

■T5−306（講師▼平井昌人）
「シェアポイント2010&オフィス2010開発レシピ」

デモ職人を自称するジニアス平井のセッション。オフィス開発を題材にしたデモで会場を沸かせていた。見逃した方は、ぜひストリーミング配信を利用してほしい。



Silverlightのカメラ機能を組み込む(T5-306)

最終セッションの後、4つの部屋で30分間のスペシャル・セッションが開催された。事後のストリーミング配信が予定されていないので、参加者した人はスピーカーの熱い思いをきっちりと受け止めよう。

Tech・Ed 2010 Sponsors

AvePoint
FUJITSU
intel
hp
IRON MOUNTAIN DIGITAL
Infragistics Powering The Presentation Layer
CRIE ILLUMINATE
HITACHI Inspire the Next
GrapeCity
iAnywhere A SYBASE COMPANY
avanade Results Realized
2nd FACTORY HYBRID INTEGRATOR
Double-Take Software
PLANTRONICS SOUND INNOVATION
net! Network Equipment Technologies
FUJISOFT

（五十音順）

© 2010 Microsoft Corporation, All rights reserved. ※商品名、会社名は各社の商標、または登録商標です。

レポート

ーエプロ向けセッション

■T2―402（講師▼奥主洋）

「あなたのHyperーV環境を最大限使い切る方法～HyperーV設定にまつわるTips」

まず、現場の声として、HyperーVのパフォーマンスがよくなっていること、ビジネスクリティカルなアプリケーションを利用していることなどが紹介され、他社製品とのパフォーマンス比較においても、ほぼ同等であることが示された。

続いて、HyperーVの設定におけるTipsとしてはCPU、メモリ、ディスク、ネットワークといった基本リソースの状態を知ることが重要である。その際、タスクマネージャではなくHyperーVパフォーマンスカウンターを使う方が正確に状態を把握できる。

多くの場合、統合サービス（IS）をインストールすべきであり、ワークロードの総合的なパフォーマンスを飛躍的に向上できる。また、デバイスエミュレーションを使うことで、正式なサポート対象ではなくても、多くのOSを稼働できる。

ウィンドウズサーバー2008、とくにR2をゲストで使用するとHyperーVの能力を最大限に発揮できる。

HyperーVマネージャーや接続セッションもリソースを消費するため、親パーティションではウィンドウを閉じておく。

ホスト側ではハイエンドのビデオドライバーを使わないようにする。WDDMが仮想・物理刊のアドレス変換を多発させるためである。

ディスクのレスポンスタイムも影響が大きい。経験的にSSDを使うことで、非常によい結果が得られた。

スナップショットは控える方がよい。更新をトラックするためにオーバーヘッドとなってしまう。

この他、パススルーディスクを使えない場合は、固定サイズVHDを使う。リムーバブルメディアは使わないといった、講師の経験をも踏まえたTipsが多数紹介された。

経験に基づく多くのTipsを紹介(T2-402)

■T3―303（講師▼柴田直樹）

「エクセル高速化からデスクトップグリッドまでカバーする次世代HPC環境」

まずウィンドウズHPC製品の歴史をふりかえり、ウィンドウズがHPC（ハイ・パフォーマンス・コンピューティング）に耐えうるOSであることを示した。

その上で、ウィンドウズHPCサーバー2008R2では、新たな構成をとり、エクセル高速化やバランス度スケジューリング、iSCSIディスクレスブートなど、多くの機能が追加されるとした。

クラスター・オブ・ワークステーション（CoW）という新機能では、ウィンドウズ7搭載PCを計算ノードにでき、従来の計算ノードと同様にモニタリングしたり、PCにジョブ投入する時間帯をスケジューリングできる。

エクセル高速化では、エクセル2010とウィンドウズHPCを組み合わせて、大幅に計算時間を短縮できる。例として、保険会社が250ものプライシングモデルをVBAなどで計算させるのに1時間かかっていたところ、64CPUコアのHPCクラスターを使うことで65秒にまで短縮できた例が示された。この能力は、銀行や証券会社でのリスクエミュレーション、流体解析などの各種エミュレーションなど、負荷の高いマクロ計算が高速化できる可能性を示すものである。実際に、HPCと接続したエクセル高速化のデモが披露された。

「VBAの知識が活かせます」(T3-303)

■T2―302（講師▼高添修）

「プライベートクラウド構築講座～無償ツール システムセンター・バーチャルマシンマネージャー・セルフサービス・ポータル2・0と共に」

クラウドとは本来「向こう側」にあるものだが、最近ではプライベートクラウドと呼ばれる「自社内のクラウド」というものがある。これは外部サービスのような制約を受けない。

このクラウドは、弾力性のある仕組みを持ち、高いサービスレベルと迅速な処理を実現する。また、ユーザー自身が主導できるという利点もある。マイクロソフトは、こうしたクラウド用のツール（システムセンター・VMM SSP 2・0）を無償提供している。

実際にVMM SSP 2・0を使ったデモを披露し、サービスを提供する側に立ち位置を動かすことで、新たなビジネスが生み出せる可能性を示した。

「ぜひ事例をご連絡ください」(T2-302)

ライトニングトーク レポート

24時間でできるAZUREを使ったソーシャルコマースサイト

最終日の優勝者は、シグマコンサルティング株式会社の橋本圭一さん。昨晩発足したAZUREコミュニティ（JAZ）の中心メンバーとのことで、AZUREを使ったシステム構成を紹介した後、実際に24時間で立ち上げたコマースサイトを1時間刻みで解説された。

ピアトークランチ

最終日の昼に開催されたピアトークランチは、テックエド参加者と講師、マイクロソフト社員、あるいは参加者どうしのコミュニケーションの場として毎年開催されているものだ。今年は3つの部屋、7つのカテゴリに分かれて、それぞれのコーナーで専門のスタッフが応対した。

会場では、新しいガジェットを持ち込んで取り囲まれている人気講師や、AZUREについて実際に悩んでいる問題を尋ねる参加者など、ビュッフェスタイルのランチを囲んで活発な交流が見受けられた。

「抱えていた問題が解決して、テックエドに参加したかいがありました」と語る人の他、今年は会場の様子をツイッターでレポートする人も多く、最終日の楽しいひと時になったようだ。

編集部より

今、まさに夕刊を編集しているところだが、まわりは後片付けの真っ最中である。最終日の締め切りが厳しいことはいつもと同じだ。◆元々「イベントレポートを新聞形式で配布する」という発想は、もっと小規模な会社にいたときに思いついて実践していたことだった。コンプライアンスやプライバシーといった面で、特に大企業には厳しい規律が求められる昨今だが、制約を課せられながらも、こうして情報をお届けできたのは、マイクロソフトが常にさまざまな選択肢を考慮しているためだと心から思う。◆最後に、この新聞発行に尽力くださった方へ。最初に声をかけてくれた齊藤さん、ゴーサインを出してくれた荒井さん、取材の調整をしてくれた奥主さん、マンガを描いてくれた大森さん、取材や広告欄で協力くださった方々、そして毎日読んでくださったすべての皆様に感謝。◆ついでに色々迷惑をかけている家族にも。ここ数週間は独りこの「楽しい仕事」にかまけていた。◆再び新聞を発行する機会があるかどうかわからないが、そのときには、また喜んで作業したいと思う。◆そしてまた、皆様とお会いできることを楽しみに。

Thank You!